

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0
2021年9月30日

事業名:	コロナ禍の災害時連携構築と被災地支援事業
資金分配団体:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	特定非営利活動法人 MAKE HAPPY
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	熊本県人吉、球磨地域を中心とした九州圏内
事業対象者:	人吉市、球磨地域と新たな九州圏内の発災地域の被災者と復旧支援を行なっている活動団体や支援者

I. 事業概要

事業概要
<ul style="list-style-type: none">・令和2年豪雨災害の支援活動がコロナの影響で長期化し、活動の継続が厳しくなっている支援団体や支援者に対し、活動にかかる資機材提供や燃料代等の補助、技術を学ぶ為の勉強会を定期的開催。「人、物、金、情報、知識」の提供や共有を行うことで各支援者の体制の維持と強化を目指します。・各団体の活動を継続することで、令和2年豪雨災害で被害にあった地域の1日でも早い復旧、復興を目指すだけでなく、今後、九州の他の地域で災害が起こった場合、現在行なっている地域での支援を止めることなく、新たな災害地での活動を行ないます。その一つとして、令和3年8月豪雨災害で被害にあった佐賀県大町町を中心とした被災家屋の復旧支援活動を行って参ります。

II. 進捗報告の概要

総括
<p>当初、補助を予定していた支援者や団体が、当団体で資金等の補助ができる段階の時点で、資金や人員確保の面で活動を維持できなくなっており、他の団体と連携しての支援体制が予定していた団体数、支援者数より少なくなっています。</p> <p>ですが、当団体の活動に参加して下さっている支援者さんに対し、交通費などの補助だけでなく、技術面のスキルアップを図るワークショップの開催などを行い、支援者に対しての支援活動の継続だけでなく、支援者が、自分の町は自分で守っていけるような取り組みを行いました。</p> <p>予定していた支援者さんとは連携を取りながらの活動ではなくなりましたが、これまでにつながってきた各種団体と連携を取りながら令和3年8月豪雨災害で被害にあった佐賀県大町町を中心とした被災家屋の復旧支援活動を行っています。現在、2人体制で人吉と佐賀での支援を行っている状況ですが、10月からは人員を増員し、さらに地域に寄り添った活動を継続していく予定です。</p>

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>～1～ 連携団体の活動にかかる資金的な補助ができ継続して支援活動ができている。</p> <p>～2～ 連携団体の名簿を作成し、活動地域、活動人数、支援の内容が把握できている。登録団体に対し必要な場合は、当団体で日報等の報告や会計、団体規約の作成など事務的な仕事のバックアップを行い、今まで個人的に活動していた支援者の体制の強化することができている。</p> <p>～3～ 連携を密に取る為の情報共有会や、技術向上の為や知識を蓄える為の勉強会をオンライン、オフラインを含め定期的に開催し、どこにいても連携が維持できる場が構築されている。</p> <p>～4～ 今後、九州圏内で災害が起きた場合、登録団体に対して、県をまたぐコロナ感染防止のためのPCR検査費、交通費、宿泊費、リース費などの初動にかかる費用のサポートができている。</p>	<p>～1～ 当初、補助を予定していた支援者や団体が、当団体で資金等の補助ができる段階の時点で、資金や人員確保の面で活動を維持できなくなっており、他の団体と連携しての支援体制が予定していた団体数、支援者数の目標5団体より少なくなっています。現時点での支援団体数は2団体1人の交通費や活動に使用する燃料代の支援補助や工具のリースを行なっています。</p> <p>～2～ 当団体で日報や清算立替書などを用意し、連携を取っている団体や支援者の活動内容を把握し、支援団体や支援者の事務的な作業軽減させ、支援活動に集中できる体制を構築しています。</p> <p>～3～ 連携している団体や支援者さんだけではなく、当団体の活動に参加して下さっている支援者や、ボランティアセンターからのボランティアさんに対し、浸水した壁や床の剥ぎ方や、インパクト、丸ノコなどの電気工具の使用方法など技術を学べる場を実際の現場の作業を通し、活動に参加して下さる方のスキルアップをはかり、当団体の活動に参加して下さっている方が自ら動けるようにワークショップ等を開催させていただきました。</p> <p>～4～ 8月に起きた令和3年8月豪雨災害で被害に遭った佐賀県での支援では、当団体の活動に参加して下さる支援者さんに対し全員にPCR検査や毎日の抗原検査などを行い、被災者さんに対しても参加して下さる支援者さんに対しても安心して、支援活動を行うことができました。</p> <p>～追記～ 現在、2人体制で人吉と佐賀での支援を行っている状況ですが、10月からは人員を増員し、地域の方が被災者のために動ける体制を作りながら、支援を行っていく予定です。</p>

活動	進捗状況	概要
<p>1：コロナの影響で活動が長期化し、活動の継続が厳しくなっている支援団体や災害支援を専門とした個人で活動されている支援者を当団体に取りまとめ団体連携登録を行います。</p> <p>2：連携を結ぶ為に、活動地域、活動人数、支援の内容を把握する為の名簿を作成します。</p> <p>3：連携登録に加わった者に対し、当団体での臨時雇用や物品や資材の提供、交通費の支給など令和2年豪雨災害での支援活動や今後九州圏内でこっ</p>	<p>1 予定より少し遅れている。</p> <p>2 各支援者によりばらつきがあります。</p> <p>3 ほぼ計画通り。</p> <p>4 ほぼ計画通り</p> <p>5 ほぼ計画通り</p> <p>6 計画通り</p> <p>7 計画通り</p>	<p>1 現在は2団体1人の連携を継続しています。目標にしている5団体との連携からは遅れている。</p> <p>2 支援団体に関しては行えているが、支援者に関してはまだできていない状況ですが、情報をおって名簿を作成できる状況です。</p> <p>3 連携している団体や支援者に対してガソリン代や高速代の支給、資機材のリースを行ない支援者が少しでも負担なく支援活動が行えるようサポートを行ってきました。</p> <p>4 支援者、支援団体が作業に集中できるよう、当団体で必要書類を用意し、事務的</p>

<p>た場合にかかる資金的な補助を行い継続して支援活動が維持できる体制を構築します。</p> <p>4：登録団体に対し必要な場合は、当団体で日報等の報告や会計、団体規約の作成など事務的な仕事のバックアップを行い、今まで個人的に活動していた支援者の体制の強化を図ります。</p> <p>5：連携を密にする為に平時から情報共有会や、技術向上の為に知識を蓄える為の勉強会をオンライン、オフラインを含め定期的に開催し、どこにいても連携が維持できる場を構築し、非常時に備えた体制を整えます。</p> <p>6：今後、九州圏内で災害が起きた場合、連携団体に対して、県をまたぐ場合はコロナ感染防止のためのPCR検査費、交通費、宿泊費、リース費などの初動にかかる費用のサポートを行いスムーズに支援が行える環境を整えます。</p> <p>7：今後、九州圏内で新たな災害が起こった場合、各団体の情報も共有し動きも連携し合うことで、現在行なっている令和2年豪雨災害地域での支援も止めることなく、今後の新たな災害地での活動を行える体制を整えます。</p>		<p>負担を軽減させました。体制の強化は支援者によってまちまちですが、支援活動を継続できる体制を整えました。</p> <p>5 連携団体、支援者の全体としての情報共有や勉強会等はできていませんが、各団体、支援者に個別での情報共有会や勉強会を開催している状況です。</p> <p>6 人吉の支援と令和3年8月豪雨災害で被害にあった佐賀県大町町での支援も同様に交通費の補助を行なっています。県外からの支援者さんに対しては全員にPCR検査と抗原検査を実施しています。</p> <p>7 現在、令和2年7月豪雨災害での熊本人吉支援と令和3年8月豪雨災害での佐賀県大町支援を連携団体、支援者と共に2箇所での支援活動を行うことができています。</p> <p>現在までに、人吉では39件の被災者ニーズに対応し、38件のニーズを完了することができています。7月からは人吉市の上薩摩瀬町の公民館の運営サポート支援が始まり、被災者ニーズだけではなく、地域のニーズや地域が抱えている課題に取り組みながら、地域コミュニティの再建支援を行いながら、地域の復興を目指しています。</p> <p>佐賀支援では11件の被災者ニーズに対応し、8件のニーズ完了することができました。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

<p>自由記述</p> <p>支援者や支援団体の活動の体制の維持や技術やスキルアップをはかり、民間団体や支援者の体制の強化を行なっていくことを目標にしていきましたが、コロナで人の移動が制限されているだけではなく、災害が同時多発的に発生しており、複数回同じ地域で起こっている状況が続いている現状の中、技術者や専門的な支援団体だけでなく、より幅広く誰もが対応できる体制を作っていくことが重要となっていると感じます。</p> <p>当団体は外部団体と呼ばれる位置にある中で、現時点で活動している地域のつながりや、防災体制、支援体制、民間団体の有無など、どのような状態であるかを把握しながら、活動を行っていく重要性を感じています。</p> <p>そのためにも、復興期を平時と捉え、平時から民間同士だけでなく、社協、行政とも情報共有や連携の構築を行っていくことが必要だと感じています。</p>

V. インプット

		2020 年度	2021 年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥11,353,200	¥11,353,200	¥3,262,400	29%
	管理的経費	¥0	¥3,184,000	¥3,184,000	¥1,239,781	39%
合計		¥0	¥14,537,200	¥14,537,200	¥4,502,181	31%

補足説明	<p>直接事業費に関して、4月～8月の執行率で約30%と遅く見えますが、佐賀の支援が8月に始まり、佐賀の追加助成の決定が9月1日だったことから、必要資材の支払いやクレジットの決済が9月以降となりましたので、執行率が低く見えます。</p> <p>また、事業開始から人材の確保が課題でありましたが、10月から1人常勤が増えたことで活動の安定を図れるものの、直接事業費の不足が懸念されます。</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

災害を専門とする支援団体や支援者の人数が増えておらず、どこの被災地へ行っても同じ顔ぶれが揃う状況が起きている。その要因として考えられることとして、災害は増えているが、支援団体や支援者の数は増えていないということが考えられます。年々、災害の規模が大きくなり、復旧、復興していくにあたり、被災者や行政、一般ボランティアだけでは対応しきれず、専門的な支援団体の知識や技術が必要となってきたことを感じます。ですが、その専門的な支援団体や支援者の活動を守る体制や制度はなく一般的なボランティア活動と同じ市民活動の一つにしか過ぎません。限られた活動費の中、保証もない状況があり、新たに支援者を増やしていくことはすごくハードルが高い状況です。

そして、コロナ禍という状況もあり、人の出入りが制限される状況があり、災害が起きたとしても、地域性やコロナ蔓延防止の観点から、専門的な支援団体が入ることができない状況も起きています。そのことで、被災者が受けられる支援のばらつきが起きています。

これらのような状況を少しでも改善していくためにも、専門的な知識や技術を持ち、支援活動に当たっている団体の世間の認知をあげることが重要だと感じています。認知をあげることで、専門的な支援団体に対して、興味を持ってもらうこと、触れてもらうことで、支援団体を応援してもらえる状況を作り出し、専門的な支援団体を知ってもらうことで、支援団体の重要性を感じてもらえることで、すこしでも多くの被災者に支援を届けていけると感じています。

認知度を上げるためにも、行政や民間団体だけでなく、様々な分野と繋がり連携していくことが重要と感じます。

VII. その他

自由記述

--

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	読売新聞 令和3年5月1日 人吉新聞 令和3年6月29日 熊日新聞 令和3年6月27日 人吉新聞 令和3年7月10日 ケーブルワン 令和3年8月30日放送ニュース
広報制作物等	有	上薩摩瀬町公民館広報「ひだまりカフェ通信」7月～9月
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	